

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	観光型ホテル （営業担当）	販売量の動き	・家族客が増加傾向にあり、客室内の人数が増え、客室単価が上昇している。周辺のホテルもかなり好調に推移している。
	やや良く なっている	一般小売店〔衣 料品・雑貨〕 （経営者）	販売量の動き	・8月は前年同月比108%と、若干ではあるが売上が増加している。特に下旬は伸びて、前年比120%である。家族連れ客の増加と、毎年この時期のマイナス要因となる台風による影響が無いことが売上増加につながっている。
		コンビニ（経営 者）	単価の動き	・近隣にダイビング教室があつて観光客が多くなつている。その影響で1人当たりの単価が上昇している。また、深夜の買物の単価も高い。
		その他飲食〔居 酒屋〕（経営 者）	来客数の動き	・例年の来客数の115%で推移している。観光客は全般的に好調であるが、地元客は例年より少し落ちている。
		観光型ホテル （商品企画担 当）	単価の動き	・前年と比較すると稼働率はほぼ同程度で、単価は上昇している。
	変わらない	百貨店（担当 者）	販売量の動き	・中元時期のずれにより動向判断が困難となつている。中元は7月ではプラス与件、8月ではマイナス与件となつているが、2か月の累計ではほぼ前年並みである。両月において食品は好調を維持するが、衣料品は紳士、子供を中心に苦戦気味である。紳士服は特に昨年まで好調のかりゆしウェアのマイナスが大きい。秋商品においては関東、関西方面での動きが活発であることから、県内での納品量と時期が懸念材料となつている。入荷遅れや展開量減により動向が大きく左右される。
		コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・8月は天候も良く、台風の影響も無かつたため、来客数が前年より増加した店舗の割合が7月より増えているが、多くの既存店では前年割れが続いている。主力となるドリンクや米飯類の落ち込みが大きく、弁当屋等への客の流出がますます目立つ。
		家電量販店（従 業員）	販売量の動き	・移転新規オープンした店舗は非常に売上が好調であるが、他の既存店の売上は非常に厳しく、同業他社も同様である。客は、いまだに安く良い商品を追い続けている。デフレ脱却にはまだ時間がかかりそうな雰囲気である。
		観光名所（職 員）	来客数の動き	・施設利用者数は、3か月前の平成18年5月は前年同月比105.6%である。今月は8月24日現在105.1%でほとんど前年並みとなつている。6月、7月は入域観光客数が前年同月割れであったが、今月は回復しているようである。来園者は、家族連れ等が中心である。
		ゴルフ場（経営 者）	競争相手の様子	・前年よりも更に低い単価で集客を図っている競争相手があり、その対応で苦慮している。
やや悪く なっている	その他専門店 〔楽器〕（経営 者）	販売量の動き	・前年より10%以上落ちている。業種形態の需要の問題、少子化傾向、今年の沖縄の旧盆時期のずれ、リピーター観光客の増加などが原因として挙げられる。少しずつ様子が変わつてきている。	
悪く なっている	-	-	-	
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	食料品生産業 （管理部門）	受注価格や販売 価格の動き	・多少の納入価格値上げを実施している。
	変わらない	輸送業（営業・ 運営担当）	受注量や販売量 の動き	・旧盆時期には一時的に受注量が増加したが、それ以外に目立って大きな動きは見当たらない。エアコン等空調機の配送が若干増加している。
		通信業（営業担 当）	受注量や販売量 の動き	・大型案件が無いので、受注量が伸びない。
		会計事務所（所 長）	取引先の様子	・取引先の経営状況は、卸売、小売、建設といった多くの業種において依然、厳しい状況が続いている。一番の原因は売上が伸びないことである。消費マインドがまだ低迷している可能性も推測される。

		コピー業（代表者）	受注量や販売量の動き	・ 8月の売上目標100%に対し、実質売上77.6%である。目標は3～4年前までは充分クリアできた数字である。印刷市場が、年々減少しつつある印象を受ける。
	やや悪くなっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 受注件数が鈍くなってきている。
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・ 短期ではなく、長期の派遣依頼が増えている。また、従来を受付やOA操作より、理学・作業療法士や設計関係など、専門的な職種が幅広く増えてきている。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・ 8月は、大手企業で求人数が増えている。業務拡大のために人員募集をしている企業も多いが、そのスタッフを管理する管理職スタッフの募集も以前より目立ってきている。これまでの採用条件よりも良い条件での管理職募集もあり、団塊世代退職問題への意識も表れている。波及効果で派遣会社への依頼も以前より増えている。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・ 県内外の求人数が伸びており、特に県外からの求人は増加傾向にある。
	変わらない	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 7月の新規求人数は、4,596人で3か月前（4月3,606人）と比較して27.5%増加している。数値を引き上げている求人は、輸送用機械器具製造業の531人、運輸業の945人である。前者は自動車産業への派遣求人で4月とほぼ同数の期間工、後者は一過性のバス会社からの求人772人を含んでいる。
		学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・ 採用には依然として強気ではある。しかし、原油高によるコストアップ、金利先高感などにより、企業側に様子見の傾向も多くみられる。
	やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	